

< 小規模多機能型居宅介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675100152
法人名	医療法人 中村弘医院
事業所名	グループホーム花水木
訪問調査日	平成20年4月12日
評価確定日	平成20年6月30日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日平成20年4月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4675100152		
法人名	医療法人 中村弘医院		
事業所名	グループホーム花水木		
所在地	鹿児島県伊佐郡菱刈町前目791 (電話) 0995-24-1182		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48-13		
訪問調査日	平成20年4月12日	評価確定日	平成20年6月30日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 27日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造準耐火造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2		2 名	
要介護3	5 名	要介護4		1 名	
要介護5		要支援2			名
年齢	平均 88 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 中村弘医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利便性の高い道路沿いの住宅地にあり、スーパーや温泉、公共施設、公園も近くにあり、買い物や散歩など外出しやすい環境にある。地域性を生かし管理者、職員は利用者の家族との信頼関係が密であり、利用者それぞれの家族は他の利用者も自分の身内と同様にに関わりをもっている。利用者はハビリティに励みながらも、自宅のようにのんびりと楽しく生活し、健康管理や疾患治療、緊急時の対応、重度化した場合や終末期の看取りに至るまで同敷地内にある協力医療機関との連携、協力体制が確立されており、利用者及び家族なども安心して利用できるホ-ムである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘の応急処置に対する取り組みについては、管理者が救命処置の指導の資格をとり、定期的に学習、実技指導に取り組んでいる。重複記録の簡素化についての指摘事項は、検討を重ね改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を職員全体で共有し、自己評価に取り組んでいる。全員で取り組む事で気づき(出来ている、足りない点)ができて共有化している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	行政職員、民生委員、家族代表利用者など多くの参加を得て、定期的に開催されている。活動内容、現状報告後に参加者の意見、要望、助言などもらっている。会議で取り上げられた検討課題についてその経過を話し合い、その成果を一つ一つ積み上げてサービス向上へ取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見は手紙や面会時、行事に参加された際、常に傾聴して記録している。家族の不安軽減を図る対策として利用者の家族や地域の認知症介護勉強会に協力している。また利用者家族の面会が頻繁であることも当ホームの特徴である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	いろいろなボランティアの出入りも多く、芸能慰問や、時には利用者の好物である「そば打ち」の実演などもある。近隣地域で行われる行事など、地域活動に参加し、地元の方々との交流を活発に行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者の思いを基本に開設時管理者・職員の意見を集約し、当グループホームの名称である花水木に擬えた事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常に勉強会や申し送り時に理念に立ち返り、検討、話し合いをしている。職員は理念を共有し、日々のケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間行事計画を掲げ、地元の方々と交流する機会を増やしている。併設のデイサービスやショートステイの利用者の方々とも交流が活発でなじみの関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を管理者・職員は共有し、自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果を踏まえ、サービスの改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、開催されている。メンバー構成も行政職員、民生委員、家族代表、利用者など幅広い人の参加を得ている。現状及び活動報告や意見要望など活発に意見の交換がなされている。内容は議事録としてまとめ、管理され共有化されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも市担当者に事業所の実績やケアサービスの取り組みを報告し、関係づくりを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホームの家族便りに利用者の近況をそえて郵送している。面会時や電話連絡などでも現状報告を行っている。金銭管理は利用者各自の出納帳に記載し、家族の確認印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、面会時や行事への参加の時、いつでも意見がもらえるよう、管理者、職員がゆとりを持って対応している。運営推進会議で出された要望などは職員と話し合い、具体化して運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者はなじみの職員が対応する事の重要性を理解している。開設以来、職員の移動や離職は無い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修に交替で参加している。研修後は報告を行ない共有できている。当地区の密着型サービス連絡協議会の発足にも積極的に参加し、職員の知識、技術の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域の事業所と協力し、当地区の密着型サービス連絡協議会を定期的開催し、意見交換や情報交換を行いサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族にホームの雰囲気になじんでもらい、利用者の身体的、精神的状態に合わせて利用を開始している。やむを得ず急遽、利用開始となった場合は家族や利用者との親しい関係者に協力依頼し、安心感を持ってサービス利用出来るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという認識を職員全員共有し、毎日の暮らしの中で一緒に考えたり、教えてもらったりの支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者と職員がゆっくりと話が出来る場をもち、利用者一人ひとりの思いや希望を傾聴している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で利用者、家族の思いや意見を聴いて記録している「暮らしの情報シート」を参考にして、各利用者担当職員を中心に職員全体で意見交換を行い、モニタリングなどで気づきや意見を出し、それらを反映した本人本意の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた定期的な見直しと最新の情報や気づきをもとに現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、故郷訪問、墓参りなど家族、利用者の希望に応じた柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。必要に応じて適切な医療が受けられるよう、医療機関との連携もとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、家族、かかりつけ医、職員と十分協議し、方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理に努め、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を勉強会や会議などで意識づけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは計画されているが、一人ひとりの思いやペースを大切にしながら、職員は柔軟に対応している。看護師の経験を持つ利用者が体調のすぐれない利用者の面倒を見たり、農業経験の利用者は野菜、花壇づくりを楽しむなど思いにそった日常生活を過ごせる支援ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はあるが利用者の希望にそって、その都度変更し、旬のもの新鮮な食材を使っている。調理、盛付、片付けなども利用者個々の状態に応じて職員と一緒にやっている。職員はもとより家族面会者も一緒に同じテーブルを囲んで楽しく食事している。糖尿病の方もメニューは同じにして、量を減らすなど工夫されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者個々の体調や様子、希望などを考慮しながら入浴支援している。入浴をためらう利用者には小菜園の草むしりをした後のタイミングを見計らって声かけし動機付けを行い、無理のない支援に結び付けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に合わせ、梅干つくり、ちまきつくりなど、利用者の知恵、経験を発揮し、楽しんでいる。地域行事への参加や利用者のなじみのある場所に出かけたり、気分転換の支援ができています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に応じて小菜園の手入れ、散歩、買い物など外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。家族にセンサーコール使用の同意書をもらっている。玄関の見える所に職員が必ず1人は待機している。外出するような利用者に対しては制止せず、さりげなく声をかけたり、一緒について行くなど安全面に配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと警察、近隣住民、利用者の参加をもらって、年2回(昼、夜間)避難訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックしている。栄養士のアドバイスをもらい、職員間で情報を共有し、糖尿病食の管理もできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を利用者が生けて玄関やディルームに飾ってある。ホーム内に季節感の感じられる品々を利用者、職員が飾りつけ、五感で感じ取れるよう配慮している。共有空間にはソファーやテーブル椅子を置き、利用者が気の向いた場所で過ごせるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外は利用者持込みが多い。使い慣れた家具、寝具など利用者が一番大切にしていたものを持ち込んで、居心地よく過ごせるように支援している。		